

コロナ下における対面式学習の変容と課題： 日本文化と体育の取り組みについて

文藻外語大学 日本語文系 謝 億榮 助理教授

はじめに：

日本語を学習するには、言語だけではなく、文学や文化や社会などの知識も学習しなければならない。文学や文化社会など様々な知識を学ぶことから言葉が豊かにし、語学力を向上させる。台湾における日本語教育では、時代の変化に伴い、漫画やアニメなどサブ・カルチャも日本語教育のカリキュラムに取り入れるようになってきた。茶道や花道など日本の伝統技能を代表する文化をはじめ、アニメまでシラバスが多様化になっている。さらに、日本のスポーツである柔道や相撲など教材として、カリキュラムに取り入れる例も多いようであるが、調べによるとこれらの講義では文字による説明するような授業がほとんどである。

柔道や相撲など日本の伝統スポーツをカリキュラムに取り入れることが素晴らしいと思うが、文字による説明することでは少々物足りないと感じる。このように、本授業では、日本のスポーツである武道を学習することを通して、文化を学び、日本という異国を理解することが目的である。したがって、本授業を通して、日本専攻ではない学生は日本文化を学びながら、日本文化を親しみになり、日本を理解し、好きになってもらうことを望ましい。

先行研究では、いかに日本文化を教えるのかについて、頼錦雀は「**日本文化を教える際、学習者の学習目的や学習段階に合わせる適切な言語を使うこと**、日本文化を担当する教師は学習者に日本文化を学習する環境や日本文化を鑑賞できる機会を作らなければならないこと、日本へ訪ねる機会をつかむこと、台湾と日本の文化を対照することが教えられる教師が望まれる」と述べている。したがって、文化を教える際、その国に近い環境、いわゆる疑似環境のもとで、目に触れることや手で触れるような体験型の学習が重要である

1. 授業のやり方について、

本授業では、日本の伝統スポーツである合気道という護身術を取り入れることにし、そのうえ、日本の道場の礼儀作法を取り入れる。同乗のような疑似環境で日本武術を体験してもらいことにする。いわゆる、体験学習型という授業である。カリキュラムについて、講義と体験できるように考案した。例を挙げながら紹介する。まずは、初回の授業では、日本の武道について、講義する。講義の内容に関して、歴史をさかのぼり、武道の歴史と変化を紹

介したうえ、現代社会と武道の関わりを説明する。また、現代日本の学校のスポーツ教育の一環として、柔道や剣道など伝統スポーツを取り入れる経緯を紹介する。第2週から本授業の中心課題である合気道に関するものを講義する。例えば、合気道の歴史、礼儀作法と技の理合いを体験しながら、合気道を文化として体系的に紹介する。また、学習環境について、第2週から期末までの教室は本学の体育館にある多目的教室（A003 教室）へ移り、疑似道場で体験型学習に入る。

2. 事例紹介

筆者は本学の体育教学センターの要請を受け「日本防身武術：合気道」（以下略「合気道」）という授業を開講した。この「合気道」という授業は文化とスポーツを融合した授業で、本校の二技部（高専に等しい）の4年生及び大学部4年生を対象にする選択科目である。この授業は構想から開講に至るまでの経緯には予想外である。本来、本授業では日本のスポーツや日本文化を紹介するが、日本語学科のカリキュラムにはふさわしくないとわれ、開講することができない。一方、本学の体育教学センターセンター長の張弘文教授は日本文化を紹介しながらスポーツでもある日本の武道を新しいとして、面白いではないかと体育のカリキュラムに合気道を取り入れることに決めた。このように、本授業の管轄は体育教学センターに属し、体育課程となり、全学の学生は授業を履修することができるようになった。台湾では武術を学校の体育教育の一環として、授業に取り入れることが珍しくないと言えよう。例えば、「国術」という拳法を体育に取り入れる小中学校が少なくない。従って、本学でも体育授業に太極拳を取り入れている。しかし、外国のスポーツいわゆる日本の武術スポーツと日本文化を一つの授業に取り入れことが珍しい、今までなかった新しい授業タイプである。

授業では日本のスポーツである合気道という護身術を通して、日本文化の一つである武道文化を学習することが目標である。合気道を学習すること、すなわち、日本の武道文化を学習することである。スポーツ学習と文化学習を連結することによって、日本文化に関する知識を習得し、異文化に対する理解できる能力を培うのが目的である。

2-1 シラバス（表1参照）は以下のようにまとめている。

表1_教案1

順序	時間配分	授業内容	
1	15:11～ 15:20	掃除(床拭き) (図1)	 (図1) 床拭き
2	15:11～ 15:20	敬礼 (始め) (図2)	 (図2) 敬礼 (始め)
3	15:11～ 15:20	準備体操 (図3)	 準備体操 (図3)
4	15:20～ 15:30	稽古 (体験) * 「合気道」技：動作の 説明(演武で技を説) * 学生同士練習 (2人で一組) * 日本文化紹介(図4)	 (図4) 日本文化紹介
5	15:41～ 16:55	稽古： * 「合気道」技：動作の 説明(演武で技を説明す る) * 学生同士練習 * 個別指導 (図5)	 (図5) 個別指導
4	15:51～ 16:00	(終了前) (座り技) 呼吸法	
5	16:11～ 16:25	* 黙想 * 敬礼 (終了)	

2-2 新型コロナウイルスへの対策

合気道授業では、受講する全ての学生に対し、教室入室前にアルコールで手を洗淨するとマスクの装着を必須とした。授業担当の教員も同様に行った。洗淨用アルコールには、大学事務係が用意し、スプレーボトルに充填したものを使用した。

2-3 教室内の換気

また、授業では、冷房は使用しないので、室内の窓を全て開けた上で、扇風機を回し、ドアを開け、換気に努めた。

2-4 対面授業におけるコロナ対策

対面授業におけるコロナ対策では、マスクを装着し、授業に入り、準備体操をする（図6を参照）。



(図6) コロナ期間中、準備体操

2-5 オンライン授業（日本文化）

授業の一環として、日本文化を紹介する。オンライン授業を通して、日本のこどもの日を紹介した。



(図7) オンライン授業（日本文化を紹介）

日本の食事文化に関して、お箸の使い方を例に、食事の礼儀作法を紹介した。（図8を参照）



(図 8) お箸の忌み

おわりに：

本授業は体験学習型授業、日本専攻ではない学生は日本文化を学びながら、日本文化を親しみになり、日本を理解し、好きになってもらうことが目的である。新型コロナウイルスが発生した初期では、マスクをしながら、対面授業を行ってきた。しかし、新型コロナ感染の拡大に伴い、大学側は学生の健康を考えると、コロナ対策としてすべての授業はオンライン授業に切り替えると命じた。このように、対面での授業は無理となり、オンライン授業へと転換せざるを得ないとなった。

調査結果、一部の学生の反応によれば、初めて日本の護身術である合気道に出会い、また、日本文化を学ぶことができたのがよかったと述べた。また、対面授業を通して、武道の礼儀作法や技を体験することができた。しかし、オンライン授業に変わったこと

文字や映像から知識や技術技能を学ぶことができる。しかし、技術技能を習得するには、実際にものを触れることや体を動かすことが肝要である。武道の世界では、(技が)体で覚えると言われている。例えば、水泳ができない人間は、水泳のビデオを見たとして、すぐに水泳ができるとは思われない。実技を学ぶ際、体験型授業は欠かせないことを明らかにした。

参考文献

【日本語文献】

鮫島 将太郎「令和2年度のコロナ禍における保健体育授業の取り組み」『スポーツトレーニング科学』(22), pp. 49-50, 2021-03-31

岩田 英樹・近藤 隆路(他)「コロナ禍の元での実技授業(機械実習)に関する報告」『大阪工業大学紀要』(66), 39-44, 2022-01-11

中嶋 嶺雄(1992)『国際関係論——同時代史への羅針盤』中央公論新社。

野中 恵「物質・生物系学生実験における新型コロナウイルス対策の事例紹介」『秋田工業高等専門学校研究紀要』(56), pp. 19-20, 2021-02-26

濱田初幸(2007)「平成 19 年度 第 1 回武道研究会報告 ドイツ柔道連盟派遣クラブチームの本学における活動とドイツ柔道事情」『鹿屋体育大学学術研究紀要』第 36 号, pp. 163-172。

坂東 隆男・杉江 正敏・木原資裕(2007)「共通教育科目における武道の実践について—木刀による剣道基本技稽古法, 居合の動き竹刀の操作の導入」、『大阪大学大学教育センター紀要』第 4 号, pp. 13-21。

平沢 信康(2007)「平成 19 年度 第 2 回武道研究会報告 英国の大学体育と武道 - ダービー大学における教育課程への導入の試み」、『鹿屋体育大学学術研究紀要』第 36 号, pp. 173-174。

山津 幸司「新型コロナウイルス感染症蔓延から 1 年後の大学体育の開講状況」『九州地区国立大学教育系・文系研究論文集』Vol. 8, No. 2, 2021. 10. 30)

若杉 莉末「授業活動における Kahoot! の活用 : 対面授業とオンライン授業での実践を通して」『多言語教育実践ジャーナル』(1), 82-90, 2021. 03. 01

【中国語文献】

頼 錦雀(2002)「日本文化をどう教えるか—台湾の場合—」日本明海大學『明海日本語』東京, 2002 年